

第51回「議員と語ろかい」報告書

文教厚生常任委員会（No. 1）

開催日	令和 8 年 5 月 14 日 18時00分 ~19時30分		
開催場所	霧島市役所 議会棟 3 階 全員協議会室ほか		
団体名	鹿児島県教職員組合始良伊佐地区支部 霧島地区協議会	参加人員	9 人 (男 4 人 : 女 5 人)
出席議員	久木田大和、塩井川公子、田中紗弥佳、渡邊理慧、立和田広司、渡邊圭章、植山太介、竹下智行、川窪幸治		
役割分担	班 長（久木田大和）副班長（塩井川公子）記録係（渡邊圭章）		
テーマ及び具体的な内容	教職員の働き方改革と子どもの実態 2班に分かれて討議 ①教職員の働き方改革 ②子どもの実態		

次回に向けて の改善点	（教職員働き方改革グループ） ◆は参加者の発言◇は議員の発言 ＜教職員の業務実態と「数字と実感」の乖離＞ ◆私は今、霧島市内の小学校で担任をしている。職場は50人以上の職員がいるため本来は「衛生管理者」が必要な規模だが、資格保持者が誰もいない。そのため教頭が係を引き受け、実質的な調査や超勤時間の統計などは「衛生推進員」の資格を持つ私が行っている。 ◆超過勤務時間（時間外在校等時間）は、3年前の年間500時間超から、一昨年度480時間、昨年度420時間へと、数字上は減少傾向にある。しかし、法令（国の基準）で定められている年間360時間は依然として超えている状況だ。 ◆昨年度の校内アンケートでは、職員の76%が「勤務時間の適正化（業務改善）に努めている・概ね努めている」と回答した。それにもかかわらず、「職場の多忙化が解消されている」と答えた職員は0%だった。一生懸命業務改善をして数字を縮小させても、誰も心や時間の「余裕」が増えたとは実感していない。これが霧島市内の学校現場のリアルではないか。 ◇議員が教育委員会に業務実態を尋ね、質問で回答をいただくと、行政側は「時間外（残業）はない」と答弁する。「アンケートは適正に取り、正常な状態に近づいている」という回答が返ってくるため、議員側も「改善されたものだ」と受け止めてしまう。現場の実態や「そこまで電気がついている」という現実との間に、捉え方や認識の大きな乖離（差）がある。 ◆（行政が「改善されている」と言う一方で）具体例を挙げると、過日、市内小学校で県外から来た新任の先生が、月146時間の超過勤務（残業）をしていた実態があった。それでも管理職からの指導や支援対策、教育委員会からのアプローチは何もなかった。これが実態だ。
------------------------	---

意見交換での主な話題等

<健康確保措置（医師の面接指導等）の形骸化>

◆文科省の在校等時間調査の結果を受けて、各教育委員会が「業務量管理・健康確保措置実施計画」を策定している。その計画書の6ページに「1ヶ月の時間外在校等時間が80時間を超えた教育職員に、医師による面接を受けさせるよう勧告・指導します」とある。しかし、これは労働安全衛生法第66条でどうに定められている義務であり、今更書くこと自体が「これまで面接指導を行っていなかった」ことの証明ではないか。

◆私の職場では、8月（夏休み期間）を除いて、毎月80時間超えの職員（主に教頭など）が発生している。これは明らかな法令違反（安全配慮義務違反）の状態だ。民間企業であれば罰則（6ヶ月以下の懲役または30万円以下の罰金）や、100時間超えの職員への強制的な医師の面接指導がある。しかし学校現場では「自主的に働いている」とみなされ、野放しにされている。産業医による月1回の巡視も、この3年間で1回も行われていない。

<市独自の「総括安全衛生委員会」設置の必要性>

◆以前私がいた他の自治体の教育委員会には、教育長、産業医、市職員、校長・教頭代表、養護教諭代表、職員団体代表で構成される「教育委員会独自の総括安全衛生委員会」が存在していた。そこでは各学校の勤務データから「この職員は医師の面接を受けているか」を産業医が突っ込み、教育委員会が動くというチェック機能（システム）が働いていた。

◇鹿児島県内で、そのような総括衛生委員会が機能している自治体はどこか。

◆県内では奄美大島の市町村（すべて設置あり）をはじめ、鹿児島市や薩摩川内市など主要な18市町村で設置されている。しかし残念ながら、この始良・伊佐地区（霧島市含む）の管内には無い。

◆チェック機能を持つ委員会があれば、産業医の意見を元に「学校に更衣室や休憩室がないのはあり得ない」と職場環境の改善に向けて公権力（拘束力）が働き、予算が取りやすくなる。それが霧島市には無いため、このままだと何にも進展しない。

意見交換での主な話題等	＜「仕事の総量」削減へのメス＞ ◇昔の先生たちはこんなに遅くまで学校にいなかった。保護者の家に上がって一緒に飲んだり、家庭訪問で晩ご飯をご馳走になったり、地域や親とワイワイやりながら子どもを育てていた。今の業務量の多さはどこからきているのか。 ◆企業（民間）から教職に転職してきた方は「先生たちには残業手当が出ないせいか、朝早く来ても放課後残っても『残業をしている』という意識自体がまるで無い」と驚いていた。また、私の職場で2週間の「持ち帰り業務アンケート」をしたところ、「持ち帰り業務が全く無い」と答えたのは50人中わずか7人しかいなかった（大半が家でも仕事をしている）。 ◇（教員志望者の減少について）昔は定員がいっぱいで倍率も高かった鹿児島だが、今は全然先生が足りないと言われる。その理由は何か。 ◆学校が「魅力的な職場」になっていない。対子ども、対管理職、対同僚、対保護者と対応する「人」が多く、負担が大きすぎる。 ◆計画書（資料）には「学校以外が担うべき業務」「教師以外が積極的に参画すべき業務」「負担軽減を推進すべき業務」が並んでいるが、結局は国が良かれと思って増やしてきた調査物、ICT（タブレット）関係の調査や検査など、今までにない業務が増えて多忙化に拍車がかかっている。 ◆学校が昔から「子どもたちのために」と善意で行ってきた登下校指導（日常的な見守り活動）なども含め、仕事の「総量」そのものにメスを入れて削減していかなければ、いくら「早く帰りなさい」と声をかけても現場は変わらない。これを単なる文字（スローガン）で終わらせない取組が必要だ。
-------------	---

次回に向けて の改善点	（子どもの実態 グループ） ◆は参加者の発言◇は議員の発言 <学校行事の削減と子どもへの影響> ◆業務改善の名のもとに行事がどんどん削られている。子どもたちは行事を楽しみにしている。昔は遠足もクラスマッチもあった。今は授業時数確保が優先で、楽しみが奪われている感覚がある。 ◆給食の時間に一緒に食べていると、子どもたちはキラキラしている。そういう何気ない時間が大事だと改めて感じる。一方で、学力のプレッシャーで学校に足が向かない子も増えている。不登校は全国的にも本市でも増えている。 ◇「不登校の要因として、学力プレッシャーはどのくらい大きいと感じているか。 ◆一つの要因ではある。昼休みに『テストの点が悪かったから残って勉強しなさい』という先生もいて、子どもが楽しみにしている時間を奪ってしまっている側面もある。ただ要因はそれだけじゃなく、タブレットやゲームで夜更かしして朝起きられない、家庭生活が不安定になっているケースも多い。親が子どもをコントロールできなくなっている。 ◆感覚過敏の子も増えている。大きな音でパニックになってしまうような子。昔からいたのか、最近増えたのかはわからないが、今はそういう子を拾い上げようという流れになっている。集団の一斉授業に入れない子が増えていて、学校現場はそれに対応しないといけない。マンパワーが明らかに足りていない。
------------------------	--

意見交換での主な話題等	＜改善事例の共有＞ ◆は参加者の発言 ◇は議員の発言 ◆今日、ある先生から聞いたが、通級の先生が配置されて、週1～2時間その子たちに個別で関われるようになったら、不登校が減ってきたと。やはり人がいると支援が届く。届くと次につながる。 ◇通級が機能すると変わるのか。 ◆そうです。ただ、そういう支援員さんがどんどん削られている現状もある。必要だとわかっていても、予算と人員の壁がある。 ＜特別支援学級の急増と教室不足＞ ◆支援学級が今や10数クラスあって、教室をどんと使う。そうすると少人数指導や習熟度別指導をやりたくても、場所がない。うちの学校も加配をいただいているが、二つに分けて教える場所がない。 ◇教室の数が足りないということか。 ◆そうです。支援学級の子は通常学級の人数カウントに入らないので、実質42～43人が40人教室に入る状況も起きています。ぎゅうぎゅう詰めで、これが子どもたちにとって良い環境かと言えば……。場所の問題は行政に何とかしていただかないとどうにもならない。」 ＜支援員の深刻な不足＞ ◆学校は約660人いて、支援員が4人。通常学級にも座ってられない子、指示が入らない子がたくさんいる。この時間来てもらえませんか、あの子を見てもらえませんか、もうフル回転。 ◇校長先生や教頭先生も対応に当たっているか。 ◆校長も教頭も主事も対応してる。でも部屋が足りない。不登校の子に寄り添う場所がない。これも行政にお願いしたい。
-------------	--

意見交換での主な話題等	＜専門職（作業療法士等）の導入について＞ ◆は参加者の発言◇は議員の発言 ◇岐阜や日田市では作業療法士などの専門職を学校現場に入れているという話を聞きくが、先生方はどう思うか？ ◆専門職が入ってくれること自体はありがたい。ただ、何をしてもらうのかが明確でないと機能しないと思う。『何かあれば言ってください』で座っているだけになってしまう可能性もある。役割をきちんと決めて入ってもらいたい。 ◆実は霧島市内の作業療法士が、小学校の校長先生と連携して勉強会を始めている。特別な支援が必要な子への対応は、教職員だけではもう正直限界。専門職に入ってもらいながら見ていくことが必要。 ＜タブレット・ICT活用の問題＞ ◆授業中にタブレットを使っているかと思ったら、後ろから見るとゲームをしていた、ということがある。昼休みも1人でタブレットをずっといじっている子がいて、人と関わる力が育ちにくなっていると感じる。 ◆ChatGPTの話をすると、うちのクラスで一番課題を抱えている子が『調べるならChatGPTがあるじゃないか』と。その通りだが、人間は15～16歳頃まで書いて覚えることで脳が発達する。その時期にアウトプットをAIに任せてしまったら、脳がツールになってしまう。これは非常に大きなリスクだ。 ◇デンマークでは小学生のタブレット使用をやめて紙に戻したという話もあるが、現場としてはどう感じるか。 ◆正直、私は学校で一番タブレットを使っていない教員だと思う。レポートは紙で書かせる。読み書きが基本。ただ、文科省が予算をつけて入れた以上、『使っていません』とは言えない雰囲気もある。使い方の強弱をわかった上で使うことが大事だと思う。 ◆書くことが苦手な子には音声入力→文字変換が有効な場面もある。悪いわけじゃない。ただ使い方の指針が不明確なまま普及してしまったのが問題。
-------------	--

意見交換での主な話題等	＜教育予算・設備の不足＞ ◆は参加者の発言◇は議員の発言 ◆私、以前いた市ではiPadもモニターも全教室に揃っていた。霧島市に来たらプロジェクターで、毎回セッティングして授業をする状態。うちの学校は今も6学級以上がプロジェクターのまま。 ◇モニターの整備はどうなっているか。 ◆今年度から4年かけて整備するという計画が動き始めた。ただ、それだけじゃなくて学校配当予算自体が削られている。紙も消耗品も指導書も買えない。校長先生に相談しても『予算がないからどうにもできない』という答えしか返ってこない。 ◆霧島市は大企業もあって予算規模は県下でも大きいはずなのに、教育予算は厳しい。他市から来てそのギャップにショックを受けた。 ＜学校統廃合について＞ ◇昨日の話で、霧島市は学校数が多いという意見もあるが、先生方はどう感じるか。 ◆地域の意向があるので一概には言えない。奄美市のように、地域住民が『学校をなくさないでくれ』という声が強くて統合できないところもある。ただ、学校が多いと設備も人員も分散して、1校あたりの充実度が下がるのは事実。 ◆小さい学校が多いと、先生の数も少なくて、社会の先生がいらないから社会の授業ができないという事態も起きている。統合すれば解決する問題もあるけれど、地域コミュニティとの兼ね合いで難しい。
-------------	--